

## 外国語教育の取組

北斗市では、英語教育の充実を図り、グローバルな視野をもつ子供を育てることを目的に、外国語プロジェクトが組織されています。このプロジェクトは主に校長会と教頭会が中心となり活動しています。

本市には4名のALT（外国語指導助手）が配置されており、それぞれの持ち味を生かした楽しい英語教育が全小中学校で行われていますが、そのALTとの連携を保つのが本プロジェクトの重要な課題となっています。1年間に4名の異なった外国人指導者と触れ合えることは市内の小中学生にとって、かけがえのない経験です。廊下で気さくに「ハロー」と話しかける姿を見て、本市での恵まれた教育環境の中で育つ子供たちが、将来大きく国際社会に羽ばたいていく姿を想像することができます。

また、本プロジェクトが中心となって、9年間を見越した英語教育課程の概要が作成されており、各校では、それを基に教育活動が組み立てられています。小学校で3段階、中学校で3段階ずつそれぞれの大きな目当てが設定されており、指導者がそれに沿って授業を進めることで、学校間の指導内容が少しでもそろえよう、計画されています。

さらに、その教育課程に合わせて、9

年間のCAN・DOリストも作成されています。これは、子どもたちが英語でできることをリスト化したもので、「英語の授業でできるようになったこと」を子供たちが自身で振り返ることができることを目的として組まれたものです。

加えて、先述した教育課程の概要の中では、各段階における英検チャレンジ目標が示されています。英検受検は、子供たちにとっては一つハードルの高いものではありませんが、市の補助制度を周知するチラシを配布するなどして、受検者を増やし、より自信をもって英語活動に臨めるよう取り組んでいます。

英検に関しては、道教委が推進する、6年生対象の英検ESGを実施し、リスニングとリーディングにおいて、小学英語でできるようになったことを振り返るとともに、英検の受験意欲を高めるよう指導に生かす取組も進めています。

小学校では次年度より教科書が改訂され、さらに英語教育への期待や関心が高まることが予想されます。本プロジェクトでも、教育課程の概要やCAN・DOリストの教科書に合わせた見直しをきめ細かく行い、さらに英語教育が充実するよう、努めていきたいと考えています。

（北斗市校長会外国語プロジェクト  
上磯小学校長 後木 明生）

## ゲーム障害とネット依存

長時間のゲームやスマートフォンによるインターネット利用で体調を崩し、頭痛や居眠り、無気力など、保健室で対応することが多くなってきました。

内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、中学生の平日1日のスマートフォンによるインターネット利用時間は、2013年で平均86・6分、2021年には約2倍の161・6分に増加しており、子どもたちの1日の活動時間に占める割合は年々増加傾向にあります。

WHO（世界保健機関）は、2019年に「ゲーム障害」を新たな病気として正式に認定しました。「ゲーム障害診断」の4項目すべてに当てはまり、12カ月続

く場合に「ゲーム障害」と診断され、当てはまる様子はないでしょうか？

ネット依存になってしまう背景には、日常のストレスを紛らわせるため簡単にワクワクや楽しみを得られるスマートフォンに頼ってしまう事があると考えられます。思春期を迎える小学校高学年から中学生では特にストレスを抱えやすく、一層その傾向が強まります。利用のルールを家庭で決め、規則正しい生活を送るよう指導することは大切ですが、厳しく注意することが逆効果となってしまうこともあります。生活全般を見渡し、スマートフォンやゲームでストレスを解消する生活から、その方法以外に価値のある世界に目を広げる声かけや、大人がスマートフォン以外の活動を楽しみ、モデルとなることも良いと思います。また、家庭や学校では、子どもがストレスについて大人に相談できる雰囲気づくりも大切です。

内閣府のホームページ「ネットの危険から子供を守るために」で検索すると、指導に役立つリーフレットが多数ありますので、参考に見てみてください。

### 【ゲーム障害診断】

いくつ当てはまりますか？

- ゲームをする時間をコントロールできない。
- ほかの生活上の関心事や日常の活動よりゲームを優先する。
- ゲームによって問題が起きているにもかかわらずゲームを続ける。
- 学業や仕事、家事などの日常生活に著しい支障がある。



内閣府2022年1月発行リーフレットより

（北斗市学校保健会

上磯中学校養護教諭 本間 裕子）